

高等学校 令和7年度（4学年用） 教科

国語

科目 論理国語

教科： 国語

科目： 論理国語

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者： (A組： 保倉) (C組： 保倉)

使用教科書： (大修館書店『論理国語』)

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。	文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。	身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	学	配当 時数
		話・ 聞	書	読					
1 学期	A 単元 日本語の多様性 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「方言コスプレ」現象 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	○	12
	定期考査					○	○	○	1
	B単元 自己と他者 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	○	13
定期考査						○	○	○	1

2 学 期	C単元 自己と他者 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 人はなぜ贈与するのか ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	14
	定期考査					○	○	○	1	
	D単元 コミュニケーションの手段 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 ネットワーク上のコミュニケーション ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
定期考査					○	○	○	1		
3 学 期	E単元 政治と社会 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 多数決を疑う ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
	定期考査					○	○	○	1	
計										78

高等学校 令和7年度(4学年用) 教科 公民 科目 政治・経済

教科: 公民 科目: 政治・経済 単位数: 2 単位

対象学年組: 第4学年 A組

教科担当者: (A組: 神田)

使用教科書: (実教出版 最新政治・経済)

教科 公民 の目標:

- 【知識及び技能】 選択・判断の手がかりとなる概念や理論及び、倫理、政治・経済などに関する現代の諸課題について理解するとともに諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実をもとに概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度と自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

科目 政治・経済 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、時刻を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
<p>A 単元 「現代の経済社会」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとする。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①経済活動の意義 ②経済社会の変容 ③経済主体と市場の働き <p>・教材</p> <p>教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。 ・資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割の変化について理解している。 ・需要と供給により価格と生産量に変化することを理解している。 ・希少な資源の効率的配分をたまたす市場機構や、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性など市場機能の限界について理解している。 ・情報の非対称性によって生じる問題の具体例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源の効率的な配分について、効率性と公平性の観点から多面的に考察している。 ・資本主義経済の成立以降、経済社会がどのように展開していったか、政府の役割の変化と関連させて考察している。 ・市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的・多角的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・情報の非対称性によって生じる問題とその対応策について、2つの視点(情報をもつ側とまたない側)を踏まえながら協働的に考察・構想し、適切に表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・資本主義経済と社会主義経済の特徴について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1
<p>1 学期</p> <p>A 単元 「現代の経済社会」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとする。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ④企業の役割 ⑤国民所得 ⑥経済成長と国民の福祉 <p>・教材</p> <p>教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有限責任と無限責任の考え方について理解している。 ・株式会社の仕組みについて、p.64の図2を利用しながら、株主と経営者との関係を理解している。 ・株式売買に関する考え方を理解している。 ・自身が興味関心をもっている会社情報を信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 ・NIの生産・分配・支出のそれぞれの内容とともに、3つが理論的に同額になることを理解している。 ・現在においては、GDPなどの経済指標では計りきれない福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業が従業員をはじめ、消費者や地域社会などに対してどのような責任を果たすべきか、協働的に考察・構想し、適切に表現している。 ・景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察し・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任や法令順守の姿勢について主体的に追究して、企業の不祥事が相次いでいる現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・社会の課題を解決する会社をどのように起業していくか、主体的に考察しようとしている。 	○	○	○	13
定期考査			○	○	○	1

<p>A 単元 「現代の経済社会」</p> <p>【知識及び技能】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察、構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとする。</p>	<p>・指導事項 ⑦金融の役割 ⑧日本銀行の役割 ⑨財政の役割と租税 ⑩日本の財政の課題 ・教材 教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・金融は、信用創造等により、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。 ・財政に求められる機能について理解している。 ・累進課税制度について、計算方法も踏まえながら理解している。 ・日本の財政の現状と課題について内容理解や複数資料の読み取りを通して理解している。 ・主要な直接税と間接税について、各税を増税した場合のメリットとデメリットを信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・景気のそれぞれの局面に対処するため、日本銀行がどのような政策をとっているか、企業との関係も含めて多面的・多角的に考察、構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・一般会計の歳入、歳出について、一部項目が大きく増加した背景を考察し、適切に表現している。 ・プライマリーバランスの改善や債務残高の減少に資する方策について、多面的・多角的に考察し、論拠をもって表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・金融技術の革新について主体的に追究して、それらをよりよい社会の実現を視野にしながら生かそうとしている。 ・金融商品についての関心を高めており、リスクとリターンとの関係などをよく理解したうえで、無理のない資金運用を心がけようとするなど、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・公平な税負担について、主体的に考えを導きだそうとしている。 ・日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳入減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究しながら、「財政健全化のあり方」を探究するための意欲を高めている。</p>	○	○	○	16
<p>定期考査</p>			○	○	○	1
<p>2 学期</p> <p>B 単元 「現代の日本経済と福祉の向上」</p> <p>【知識及び技能】 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察、構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとする。</p>	<p>・指導事項 ①日本経済の成長と課題 ②中小企業と農業 ③消費者問題 ④公害防止と環境保全 ・教材 教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。 ・中小企業が日本経済の発展に寄与してきた役割について理解している。 ・食料安全保障の観点から、日本の食料自給率と貿易の関係について理解している。 ・契約の効力が発生する要件や、消費者契約法に定められている契約取り消しの意義などについて理解している。 ・政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択・判断し、表現している。 ・今後の日本経済のあり方について、収集した諸情報にもとづいたうえで、「効率性」と「公平性」といった観点も踏まえながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本経済の基盤ともいえる中小企業が、自立的に成長していける環境を作り出すためにどのような政策が必要か、協働的に考察し、その結果を適切に表現している。 ・環境保全と経済活動の両立について協働的に考察したうえで選択・判断し、それらを適切に表現している。 ・循環型社会の実現における課題を見出し、法制度と消費者の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・食料安全保障について主体的に追究し、自給率向上などの日本農政の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。 ・日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、循環型社会の実現に向けた諸施策などを学習したことを、社会生活に生かそうとしている。</p>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○	○	1
<p>3 学期</p> <p>B 単元 「現代の日本経済と福祉の向上」</p> <p>【知識及び技能】 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察、構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとする。</p>	<p>・指導事項 ⑤労働問題と労働者の権利 ⑥こんにちの労働問題 ⑦社会保障の役割と課題 ・教材 教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・労働基本種と労働三法の内容について理解している。 ・職場における不当な差別的扱いがあってはならず、そのための法整備と対策が急がれることを理解している。 ・社会保障は高齢者だけのものではなく、社会に参加するすべての世代について検討されるべきものであることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。 ・社会保障のあり方について、税金中心のしくみと社会保険中心のしくみでどのような違いがあるか協働的に考察し、それらを適切に表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。</p>	○	○	○	17
<p>定期考査</p>			○	○	○	1
<p>合計</p>						78

高等学校 令和7年度(4学年用) 教科 地理歴史 科目 地歴考究

教科: 地理歴史 科目: 地歴考究 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 4 学年 A 組 C 組

教科担当者: 志賀尚司

使用教科書: (歴史総合 近代から現代へ 山川出版社 ・ 高校生の地理総合 帝国書院)

教科 地理歴史

【知識及び技能】世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、総合的にとらえて基礎的知見を得る。

【思考力、判断力、表現力等】上記で獲得した基礎的知見を、世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】上記をふまえて、現代に通暁する諸課題を認識し、自身の問題として自覚化する。

科目 地歴考究の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、総合的にとらえて基礎的知見を得る。	上記で獲得した基礎的知見を、世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、多面的・多角的に考察する。	上記をふまえて、現代に通暁する諸課題を認識し、自身の問題として自覚化する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期	A単元「日本近代国家の地政学」 【知識及び技能】 日本の地理的位置と開国・対外進出等について歴史的展開の基礎的知識を把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本の地勢と地政学から、近代日本の東アジアにおける「立ち位置」について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化する。	・指導事項 近代日本の形成	【知識・技能】 なぜ幕末に日本の開国は焦点化するのか、そしてその後の近代化過程について基礎的な知識を獲得し得たか。 【思考・判断・表現】 日本の開国・近代化過程を立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化し得たか。	○	○	○	8
	A単元「日本近代国家と人物」 【知識及び技能】 日本近代国家形成における人物の動向について基礎的知識を把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近代国家形成における歴史上の人物の選択と決断について多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化する。	・指導事項 近代日本の形成と人物	【知識及び技能】 日本近代国家形成における人物の動向について基礎的知識を把握し得たか。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近代国家形成における歴史上の人物の選択と決断について多角的・多面的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化し得たか。	○	○	○	6
	到達度テスト			○	○	○	1
	B単元「日本現代史の展開」 【知識及び技能】 日本現代史の展開を日本の地理的位置や国際環境をふまえて把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本現代史の展開を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本現代史の展開	【知識・技能】 日本現代史の展開を日本の地理的位置や国際環境をふまえて把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本現代史の展開を多角的・多面的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
B単元「日本現代史と人物」 【知識及び技能】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 「日本現代史の人物」	【知識・技能】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本現代史の展開上の状況を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	5	
2 学 期	C単元「日本前近代史の展開」 【知識及び技能】 日本古代・中世史の展開を、地勢・地政学をふまえて把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本古代・中世史の展開を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 「日本前近代史の展開」	【知識・技能】 日本古代・中世史の展開を、地勢・地政学をふまえてを把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本古代・中世史の展開を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	9
	C単元「日本前近代史と人物」 【知識及び技能】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本前近代史と人物	【知識・技能】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
	到達度テスト			○	○	○	1

3 学 期	D単元「日本前近代史の展開」 【知識及び技能】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本近世史の展開	【知識・技能】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて把持し得たか。 【思考・判断・表現】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	9
	D単元「日本近世史と人物」 【知識及び技能】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本近世史の人物	【知識・技能】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
	E単元「世界史上の人物」 【知識及び技能】 世界史上の人物の判断・選択・決断を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 世界史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	指導事項 世界史上の人物	【知識・技能】 世界史上の人物の判断・選択・決断を把持し得たか。 【思考・判断・表現】 世界史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	18

合計
78

高等学校 令和7年度(4学年用) 教科 公民 科目 公民考究

教科: 公民 科目: 公民考究 単位数: 2 単位

対象学年組: 第4学年 A組

教科担当者: (A組: 神田)

使用教科書: (実教出版 最新政治・経済)

教科 公民 の目標:

- 【知識及び技能】 選択・判断の手がかりとなる概念や理論及び、倫理、政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実をもとに概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度と自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

科目 公民考究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる様々な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、時刻を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	学	配当 時数
A 単元 「現代国家と民主政治」 【知識及び技能】 ・ 基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。 ・ 民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 政治、国家、法のあり方について考える。 ・ 基本的人権の保障はどのように拡大していったのか考える。 ・ 世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのか考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 国民主権や議会制民主主義をニュースで起こっていることと結び付けようとする。	・ 指導事項 ① 民主政治と法 ② 民主政治の基本原則 ③ 民主政治のしくみと課題 ④ 世界のおもな政治制度 ・ 教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・ 法の意義と役割のほか、法の分類についても理解している。 ・ 基本的人権の歴史的発展について理解している。 ・ 議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。 ・ 基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・ 国民主権を担う公民としての自覚をもとに、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解・追究しようとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○	○	1
B 単元 「日本国憲法と基本的人権」 【知識及び技能】 ・ 日本国憲法の成立過程を踏まえて、明治憲法との違いを理解する。 ・ 自由権の内容について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 日本国憲法の基本原則を理解したうえで、憲法の改正手続きについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 日本国憲法が保障する基本的人権のうち、精神の自由について身近な例と結び付けて考える。 ・ 現代社会にはどのような差別があり、どのような対処がなされているのかニュースなどから見つける。	・ 指導事項 ① 日本国憲法の成立 ② 日本国憲法の基本原則 ③ 自由で生きる権利(1) ④ 自由で生きる権利(2) ⑤ 平等で生きる権利 ・ 教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・ 日本国憲法の成立過程を理解している。 ・ 諸外国の憲法に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 ・ 自由権・平等権と関連する判例(教科書掲載外の判例)を信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 【思考・判断・表現】 ・ 自由権・平等権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・ 差別を解消すべき理由について、『公共』で学んだ「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった視点に立ちながら、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、改正手続きなどについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・ 日本国憲法の三大基本原則が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追究しようとしている。 ・ 基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>B 単元 「日本国憲法と基本的人権」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権の内容について理解する。 ・新しい人権について理解する。 ・公共の福祉について理解する。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権にはどのような権利があり、どのように保障されているか判例をもとに考える。 ・参政権、請求権にはどのような権利があるか判例をもとに考える。 ・平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設され、活動範囲をひろげてきたのか、その背景を考える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきか、身近な事例を基に考えを深める。 ・徹底した平和主義をかかげる日本が、今後世界で求められることは何かグループワークを通じて意見交換をする。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑥社会権と参政権・請求権 ⑦新しい人権 ⑧人権の広がりや公共の福祉 ⑨平和主義と自衛隊 ⑩日米安全保障体制の変化 ⑪21世紀の平和主義 <p>・教材 教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。 ・社会権と関連する判例（教科書掲載外の判例）を信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・環境権・知る権利・プライバシーの権利などの新しい人権の内容とそれらの権利が主張されるようになった背景について理解している。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について理解している。 ・公共の福祉の具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。 ・1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。 ・日本の安全保障をめぐる現状と課題、自衛隊の海外活動の現状といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・差別を解消すべき理由について、『公共』で学んだ「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった視点に立ちながら、適切に表現している。 ・社会権の保障（すべての人が人間らしい生活を送れるようにするために国がすべきことは何か、など）について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・知る権利の内容理解を踏まえたうえで、「忘れられる権利の是非」について多面的に考察し、適切に表現している。 ・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずから調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会の改善に生かそうとしている。 ・新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。 ・集団的自衛権について関心が高まっており、集団的自衛権が他国との関係でどのような影響を及ぼさるかについて主体的に検討しようとしている。 ・我が国の安全保障と防衛について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 				16
定期考査				○	○	○	1
2 学 期	<p>C 単元 「日本の政治制度と政治参加」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会の役割や権限について理解する。 ・内閣の権限と議院内閣制について理解する。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。 ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・地方がかかえる課題について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の民主化に必要なことは何かを考える。 ・司法権の独立はなぜ重要か考える。 ・日本の地方自治はどのような財政上の課題があるか考える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会の地位・役割・構成・権限について、新聞やニュースで伝えられていることと関連付けられるようにする。 ・司法制度改革にはどのようなものがあるか、新聞やニュースなどから情報を集める。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①政治機構と国会 ②内閣と行政機関の拡大 ③公正な裁判の保証 ④地方自治と住民福祉 <p>・教材 教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会の役割や権限、運営について理解している。 ・内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。 ・行政改革の現状、日本各地のオムブズマンの活動状況といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。 ・違憲審査権について理解している。 ・裁判員制度や検察審査会の意義と役割について理解している。 ・司法制度改革の現状と課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 ・地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解している。 ・地方自治の政治・経済的な課題について理解している。 ・住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。 ・身近な地域の人口動向や防災面での課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度の意義と課題について協働的に考察し、適切に表現している。 ・違憲審査権の行使について、2つの観点（消極的観点：裁判所は直接国民を代表する機関ではないので、代表者からなる国会の定めた法律の違憲審査には消極的であるべきである／積極的観点：多数決による政治で無視されがちな少数者の権利を救済できるのは裁判所以外にないのだから、違憲の法律による権利侵害に対しては積極的に違憲審査すべきである）を踏まえながら考え、適切に表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・行政権の拡大について関心を深めており、官僚政治と官邸主導のそれぞれの長所と短所について主体的に追究しようとしている。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・地方がかかえる課題の概要を理解したうえで、身近な地域の人口動向や防災面での課題、東京圏への一極集中といった主題に興味関心をもち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にもなう課題の解決策などを積極的に追究しながら、「持続可能な地域社会のあり方」や「地域における防災」を探究するための意欲を高めている。 				15
定期考査				○	○	○	1

3 学 期	<p>④単元 「日本の政治制度と政治参加」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。 マス・メディアや市民運動の意義について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか、政党政治にはどのような課題があるか考える。 日本の選挙制度の課題にはどのようなものがあるか考える。 メディアの責任とは何か、自分の意見をまとめ、発表する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 政党政治にはどのような課題があるか、新聞やニュースなどから情報を収集する。 投票率が上昇するためにはどうしたらよいか自分ごととして考える。 	<p>・指導事項</p> <p>⑤政党政治</p> <p>⑥選挙制度</p> <p>⑦世論と政治参加</p> <p>・教材</p> <p>教科書、一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 政党政治や日本の政党政治の課題について理解している。 日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴、議員定数の不均衡などの課題について理解している。 選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解している。 民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の政党政治の課題について、「政治資金」や「政党間の競争」といった観点に立ちながら考え、適切に表現している。 SNSやインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 政党の変遷について主体的に追究して、なぜ離合集散が繰り返されるのかといった観点から政党政治の課題を意欲的に解決しようとしている。 選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。 政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。 政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 	○	○	○	17	
	定期考査			○	○	○	1	
							合計	78

高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組

教科担当者： 福地

使用教科書：（新 高校の数学A（数研出版））

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 基本の図形	【知識・技能】 ○図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいか判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○図形の基本性質について既に学んだ事項を思い出し、それらを活用できる場面を見いだそうとしている。	○	○	○	2
		2. 角の二等分線と線分の比	【知識・技能】 ○角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それらを用いて辺や線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○外角の二等分線についても内角の場合と同様の定理が成り立つことに興味をもつ。	○	○	○	3
		3. 三角形の外心、内心、重心	【知識・技能】 ○三角形の外心・内心・重心の定義とその性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○三角形の外心・内心・重心の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○三角形の外心・内心・重心に関する性質に興味をもち、考察しようとする。	○	○	○	4
		定期考査		○	○	○	1
		4. 円周角の定理	【知識・技能】 ○弧、弦、円周角、中心角など円に関する用語を理解している。 ○円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○円周角の定理の逆を理解し、等しい角に着目して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○中学校で学んだ円周角の定理とその逆を思い出し、それらを活用しようとしている。	○	○	○	6
		5. 円に内接する四角形	【知識・技能】 ○円に内接する四角形の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○円に内接する四角形の性質やその逆を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ○四角形が円に内接する条件について、対角に着目して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○四角形が円に内接する条件に興味をもち、考察しようとする。	○	○	○	6
		6. 円の接線	【知識・技能】 ○接線と弦のつくる角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○円の接線の長さが等しいことを理解し、辺や線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ○接線と弦のつくる角の性質を証明する際に、場合分けをしながら考察することができる。 ○円の接線の長さが等しいことを証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○円の接線にはいろいろな性質があることを知り、それぞれの性質と活用法について興味をもつ。	○	○	○	4
		定期考査		○	○	○	1

	7. 方べきの定理	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方べきの定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味をもつ。 	○	○	○	6
	8. 2つの円	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの円の位置関係を、動的な視点によって観察・分類することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係について、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 	○	○	○	4
	9. 作図	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件つき確率の定義を理解し、確率を求めることができる。 ○確率の乗法定理を理解し、確率を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確率の乗法定理を利用することで、くじを引くときの順番には当たる確率は関係がないことを理解し、説明することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件つき確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、活用しようとする。 ○確率の乗法定理を活用して、「くじを引く順番と確率」といった身近な確率の問題解決に積極的に取り組もうとする。 	○	○	○	4
第2節 空間図形 空間図形の性質についての理解を深め、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	1. 空間の直線、平面	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいか判断できる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図形の基本性質について既に学んだ事項を思い出し、それらを活用できる場面を見いだそうとしている。 	○	○	○	2
定期考査			○	○	○	1
	2. 正多面体	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それを用いて辺や線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外角の二等分線についても内角の場合と同様の定理が成り立つことに興味をもつ。 	○	○	○	2
	3. 立体の切断	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それを用いて辺や線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外角の二等分線についても内角の場合と同様の定理が成り立つことに興味をもつ。 	○	○	○	2
	4. 円周角の定理	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三角形の外心・内心・重心の定義とその性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三角形の外心・内心・重心の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三角形の外心・内心・重心に関する性質に興味をもち、考察しようとする。 	○	○	○	4

	5. 円に内接する四角形	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円に内接する四角形の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円に内接する四角形の性質やその逆を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ○四角形が円に内接する条件について、対角に着目して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四角形が円に内接する条件に興味をもち、考察しようとする。 	○	○	○	2
	6. 円の接線	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○接線と弦のつくる角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○円の接線の長さが等しいことを理解し、辺や線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ○接線と弦のつくる角の性質を証明する際に、場合分けをしながら考察することができる。 ○円の接線の長さが等しいことを証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○円の接線にはいろいろな性質があることを知り、それぞれの性質と活用法について興味をもつ。 	○	○	○	2
	7. 方べきの定理	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方べきの定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味をもつ。 	○	○	○	3
定期考査			○	○	○	1
3 学 期	8. 2つの円	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの円の位置関係を、動的な視点によって観察・分類することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係について、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 	○	○	○	2
	9. 作図	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校で学んだ基本的な作図を行うことができる。 ○円の接線を、基本的な作図の組み合わせによって描くことができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな図形を、基本的な作図の組合せによって描くことができることを説明することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンパスと定規を使って作図に積極的に取り組もうとする。 ○作図に対して、なぜそれが正しいか考え、説明しようとする態度がある。 	○	○	○	3
	10. 復習	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校で学んだ基本的な作図を行うことができる。 ○円の接線を、基本的な作図の組み合わせによって描くことができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな図形を、基本的な作図の組合せによって描くことができることを説明することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンパスと定規を使って作図に積極的に取り組もうとする。 ○作図に対して、なぜそれが正しいか考え、説明しようとする態度がある。 	○	○	○	4
	第2節 空間図形 空間図形の性質についての理解を深め、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	1. 空間の直線、平面	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2直線の関係、直線と平面の関係、2平面の関係には3種類ないしは2種類あることを理解し、それらの位置関係を示すことができる。 ○2直線のなす角、直線と平面の垂直条件、2平面の位置関係について理解し、角の大きさやそれらの関係性を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○直線と平面が垂直になるための条件を、本を立てたときの状態に当てはめるなど具体的な事例によって考察することができる。 ○直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、立方体を例として考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○直線や平面の位置関係にはさまざまな状態があることに興味をもち、それらの性質を理解しようとする。 	○	○	○

	2. 正多面体	<p>【知識・技能】 ○多面体や正多面体の定義を理解し、それらの頂点、辺、面の数を求めることができる。 ○正多面体の特徴を理解し、正多面体が5種類のみであることを知っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○多面体の頂点、辺、面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し、説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○多面体に関して成り立つ性質について興味をもち、その性質を確認しようとしている。</p>	○	○	○	3
	3. 立体の切断	<p>【知識・技能】 ○立体を平面で切り取ったときの切り口の形や切り取られてできる立体について、どのような形状になるかを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○立体の切り取り方によって切り口の形が異なることや、そのときの切り口の特徴について説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○立体の切り口の形がどのようなものかについて興味をもち、その特徴を見つけ出そうとしている。</p>	○	○	○	2
定期考査			○	○	○	1
						合計
						78

高等学校 令和7年度 (4学年)

教科 理科

科目 物理基礎

教科：理科

科目：物理基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組

教科担当者：(A組：上野)

使用教科書：(東京書籍 物基702 『新編 物理基礎』)

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて、観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。そして導き出した自らの考えを的確に表現する力を身につける。	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的な視点・考察力を養うとともに物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	記 時 数
<p>運動の表し方</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効数字や科学表記を用いた計算処理ができる。 運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、時刻や位置を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録タイマーとテープを使って、自分自身の運動について調べ、レポートを作成したり他の人の運動と比べたりする。 変位と時刻の関係や、速度と時刻の関係をグラフに表す方法 (x-t グラフ、v-t グラフ) を理解する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 等速直線運動のx-tグラフやv-tグラフの特徴について理解する。 水平面上を進む物体と斜面を下る物体の運動のようすの違いについて比較し、斜面を下るときには速度が変化することを理解する。 	<p>【指導事項】</p> <p>A 有効数字と不確かさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定値を使った計算 科学表記 <p>B 運動の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 速さ 変位と速度 等速直線運動 <p>C 合成速度と相対速度</p> <p>D 速度が変わる運動</p> <p><実験1>斜面上を運動する物体</p> <ul style="list-style-type: none"> 斜面を下る力学台車 自由落下運動 投げ下ろした物体の運動 投げ上げた物体の運動 水平投射運動 斜方投射運動 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動している物体のようすを表す物理量のうち、時刻や変位、速さについて理解している。[行動観察・記述分析] <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ストロボ写真から、その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現している。[発言分析・記述分析] 等速直線運動のv-tグラフ、x-tグラフの特徴を理解している。[発言分析・記述分析] <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を踏まえ、斜面を下る物体の速度の変化を調べるための方法や分析のしかたを自分なりに考え、その考えに基づいて実験を実施している。[発言分析・行動観察] 等加速度直線運動のグラフから、式の導き方を理解し、表現している。[行動観察・記述分析] 	○	○	○	13
定期考査			○	○	○	1
<p>さまざまな力</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 灯り、通信、交通、コンピュータ、農業、食品、医療、防災、エネルギーの歴史について時系列的に理解できている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術が時代とともに進歩し、人間生活を豊かで便利にしてきたことや人間生活に不可欠であることを理解できている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展の歴史について関心を持ち、自ら調べ学ぶ態度を養う。 	<p>【指導事項】</p> <p>A 力とつり合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 力の合成と分解 垂直抗力と弾性力 <p>B ニュートンの運動の3法則</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣性の法則 「運動の変化」と「力」 (実験1) 力と加速度の関係 (実験2) 質量と加速度の関係 運動方程式の活用 作用・反作用の法則 <p>C さまざまな力</p> <ul style="list-style-type: none"> 動摩擦力とその性質 静止摩擦力とその性質 動きだすのを妨げる力 空気の抵抗力 水圧と浮力 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 灯り、通信、交通、コンピュータ、農業、食品、医療、防災、エネルギーの歴史について時系列的に理解できている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術が時代とともに進歩し、人間生活を豊かで便利にしてきたことや人間生活に不可欠であることを理解できている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展の歴史について、意欲的に理解しようとしている。 	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和7年度（4学年） 教科

理科 科目 教養科学

教科：理科 科目：教養科学 単位数：2 単位
 対象学年組：第4学年 A組～ C組
 教科担当者：（A組：上野） （C組：上野）
 使用教科書：（数研出版 科人704 『科学と人間生活』）
 教科 理科

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 教養科学	の目標：
【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
科目 教養科学	の目標：
【知識及び技能】	科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身に付け、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解できている。また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
【学びに向かう力、人間性等】	身近な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	担当 時数
第2編1章 生命現象の大もととなる遺伝子のはたらき 【知識及び技能】 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・タンパク質はアミノ酸がつながってできていることを理解する。 ・DNAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について考え、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・転写と翻訳について自分なりの表現で説明する。 ・タンパク質によってアミノ酸の並び方を予想できる。 ・ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、さまざまなはたらきをもっていることを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・親の形や性質などの特徴が子や孫に現れることがあることを想起し、遺伝について問題を見いだそうとする。	【指導事項】 A 遺伝子とDNA ・DNAの構造 ・遺伝子とDNAの関係 <観察・実験2>DNAの抽出 B DNAの遺伝情報からタンパク質へ ・タンパク質をつくるアミノ酸 ・転写と翻訳 C 体内ではたらくタンパク質 ・さまざまなタンパク質 ・学習内容の整理 ・章末確認テスト 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・安全面や衛生面に留意して実験を行い、抽出したDNAについて、スケッチや文章で適切に記録している。【行動観察・記録分析】 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解している。【記述分析】 ・DNAの塩基配列を基にヒトの体内でタンパク質がつくられる過程について理解している。【発言分析】 【思考・判断・表現】 ・学んだことを生かして、転写と翻訳を経て体内でタンパク質がつくられる過程について、自らの言葉で表現しようとしている。【発言分析・行動観察】 ・ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、生命活動に重要な役割を果たしていることを理解している。【発言分析・記述分析】 【学びに向かう力、人間性等】 ・視覚、血糖濃度の調節、免疫、遺伝子のはたらきについて、人間生活と関連付けて考えようとしている。【発言分析・記述分析】	○	○	○	11
定期考査			○	○	○	1
1学期 材料とその利用 【知識及び技能】 ・予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防する仕組みについて理解する。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・免疫反応によってアレルギーが引き起こされることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・抗原抗体反応の仕組みと特徴について説明できる。 ・免疫記憶、一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のデータを基に、免疫記憶の利点について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・うがいや手洗いの重要性について考え、病原体から体を守るための仕組みについて問題を見いだす。	【指導事項】 A 感染症から体を守るしくみ ・免疫を支えるリンパ球 ・B細胞としてはたらく抗体 ・抗原抗体反応の特徴 ・免疫記憶 <実習2>免疫記憶の利点を考えよう B 免疫のしくみと日常生活 ・予防接種で感染症予防のしくみ ・免疫反応で起こるアレルギー 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・免疫の仕組みとしての抗原抗体反応や免疫記憶、それらを利用した治療法について理解している。【発言分析・記述分析】 【思考・判断・表現】 ・一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のグラフを読み取り、科学的に考察して、免疫記憶の利点を見だし、表現している。【発言分析・記述分析】 ・はしかの予防接種の効果について、データを基に科学的に考察して見だし、表現している。【発言分析・記述分析】 【学びに向かう力、人間性等】 ・予防接種で感染症を予防する仕組みや免疫反応によるアレルギーについて主体的に調べようとしている。【発言分析・記述分析】	○	○	○	14
定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>微生物とその利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちの身のまわりには無数の微生物が存在することを実験を通して理解できている。 微生物には特徴の異なるさまざまな生物が含まれることを理解できている。 目に見えない微生物の存在を認識するに至った科学史を理解できている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発酵食品の生産には微生物が利用されることを、食品中の微生物の観察を通して考えさせる。 乳酸発酵とアルコール発酵が起こる際の反応を理解できているとともに、それぞれを利用してつくられる発酵食品について学習させる。 ワクチンや抗生物質などがどのような物質であるのかを理解できているとともに、それらの医薬品の生産に微生物が利用されていることを学習させる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分解者としての微生物のはたらきを理解できている。 炭素や窒素の循環の概要とそれに関わる微生物の役割を理解できている。 微生物による分解によって自然浄化が行われていることや、微生物の分解能力を利用した浄化が試されていることを学習させる。 	<p>【指導事項】</p> <p>A 身のまわりの微生物</p> <ul style="list-style-type: none"> 微生物とその発見の歴史 発酵食品への微生物の利用 乳酸発酵とアルコール発酵 <p>B 医薬品への微生物の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系における微生物 環境の浄化と微生物 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 微生物の生息場所や種類について理解できている。 微生物に関わる一連の科学史を理解できている。 発酵および発酵食品について理解できている。 乳酸発酵およびアルコール発酵について理解できている。 ワクチンや抗生物質などの医薬品の製造に微生物が関わっていることを理解できている。 炭素循環と窒素循環に微生物が関わっていることを理解できている。 汚水や環境の浄化に微生物が利用されていることを理解できている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 微生物を培養する実験から、微生物が生息する場所について考察できる。 微生物の科学史についての学習を通して、目に見えない微生物を調べる方法について考察できる。 発酵食品に含まれる微生物の観察を通して、発酵食品と微生物との関わりについて考察できる。 アルコール発酵の実験を通して、アルコール発酵の反応について説明できる。 土壌中の微生物を確認する実験を通して、生態系における微生物の役割を説明できる。 活性汚泥の観察を通して、下水処理のしくみについて説明できる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 微生物が人間生活のさまざまな場面に役立っていることを意欲的に理解しようとしている。 	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
	<p>熱の性質とその利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 温度は何を表すものなのか理解できている。 熱容量と比熱について理解できている。 電力量と電力の定義について学習させる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体をつくる粒子が熱運動をしていることを、実験を通して理解できている。 熱伝導、対流、熱放射は、それぞれどのように熱が伝わるのか理解できている。 物質の三態、融解熱・蒸発熱について、物質をつくる粒子に着目して理解できている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーに関心を持ち、さまざまな種類に分類し考えさせる。 可逆変化と不可逆変化は、それぞれどのような変化なのか考えさせる。 どのような方法で電力を生み出しているか考えさせる。 	<p>【指導事項】</p> <p>A 温度と熱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱容量・比熱 熱の伝わり方 <p>B 仕事や電流と熱の発生エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 移り変わり 熱エネルギーの利用 エネルギー資源の利用 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> セルシウス温度と絶対温度について理解できている。 熱平衡とはどのような状態か理解できている。 熱量の保存について実験を通して、理解できている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーは相互に変換されることを実験を通して考えている。 仕事による熱の発生について、実験を通して考えている。 ジュールの実験にも触れ、仕事と熱量が比例関係にあることを説明できる。 電流の仕事により熱が発生することと、その発熱量はジュールの法則に従うことを説明できる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱機関について、実験を通して主体的に学び、得た熱量のすべてを仕事に変えることはできないことを説明しようとしている。 複合サイクル方式やコージェネレーションシステムなど、エネルギーを効率的に利用する技術があることを深く調べ、まとめようとしている。 	○	○	○	12
<p>自然景観と自然災害</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生のしくみを理解する。 火山噴火のしくみについて理解する。 マグニチュードと震度の違いを理解する。 風化、侵食、運搬の3作用を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> マグマの性質と溶岩の噴出量によって、火山の大きさや形が変化することを学習させる。 火山活動によって引き起こされる災害について学習させる。 ハザードマップを作成する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風化・侵食・運搬の作用によって、山地、河川ぞい、平野ではそれぞれ特徴的な地形が形成されることを理解しようとする。 土砂災害を引き起こす現象の種類と危険性の高い地形との関係について理解しようとする。 	<p>【指導事項】</p> <p>A 日本列島とプレート</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震のしくみと地震活動 地震による災害 マグマがつくる火山と景観 <p>B 火山がもたらす恵みと災害</p> <ul style="list-style-type: none"> 水のはたらきと自然景観 土砂災害と洪水 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生のしくみを理解できている。 火山噴火のしくみについて理解できている。 マグニチュードと震度の違いを理解できている。 風化、侵食、運搬の3作用を理解できている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島がプレート境界に位置することから、プレート境界にそって多くの地震が発生することを説明できる。 プレートの運動によって高くなった山は、流れる水のはたらきによって低くなることを理解できている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震によって発生する災害やその危険性について、意欲的に考えようとしている。 火山は災害を引き起こすだけでなく、温泉や鉱物資源など私たちの生活に恵みをもたらしていることを理解しようとしている。 	○	○	○	9	
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>課題研究</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>自然や生活の中から疑問を発見させ、そのテーマについて調べていく方法を学ばせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>調べたことをまとめ、発表する技術と方法を学ばせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>自分の考えを相手に正しく効果的に伝えることの大切さを考えさせる。</p>	<p>【指導事項】</p> <p>各自、時事的な科学トピックを課題研究し、クラス発表する。</p> <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 授業プリント 一人1台端末 	<p>【知識・技能】</p> <p>自然や生活の中から疑問を発見し、そのテーマについて調べ、深く理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>知りえた情報をわかりやすく整理し、原稿にまとめることができる。また、他者に簡潔に説明し、内容を効果的に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>自分の課題に対し、関心を持って調べ、課題解決に向け意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1
合計							78

足立 高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第4学年 A組・C組

教科担当者：（A組：澤野、北川、益田）（C組：澤野、北川、益田）

使用教科書：（大修館 現代高等保健体育）

教科 保健体育

の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
<p>体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な体ほぐしの運動を考え、実践する力を身につけること。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考えること。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体ほぐし」の意義を理解し、自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 体育理論 体ほぐし運動 体力テスト 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な体ほぐしの運動を考え、実践する力を身につけている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考えている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体ほぐし」の意義を理解し、自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとする態度を養おうとしている。 	○	○	○	5
<p>球技(ゴール型・バスケットボール)</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 安定したボール操作や空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れること。⑦ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。⑧ゴール前の空いている場所をカバーすること。</p>	<p>【知識・技能】 ①バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したボール操作や状況に応じたボール操作、チームメイトと連携して空間を作り出す動きや空間を埋める動きなどをゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えようと、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	○	○	○	7
実技テスト			○	○	○	2
<p>球技(ネット型・バドミントン)</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>【知識・技能】 ①バドミントンの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えようと、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	○	○	○	11
実技テスト			○	○	○	2

<p>球技(ネット型・卓球)</p> <p>【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解しうえて、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>11</p>
実技テスト		<p>○ ○ ○</p>	<p>2</p>	
<p>球技(ネット型・卓球)</p> <p>【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解しうえて、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>11</p>
実技テスト		<p>○ ○ ○</p>	<p>2</p>	
<p>球技(ゴール型・アルティメット)</p> <p>【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】安定したディスク操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①エンドゾーン内にパスをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とディスクの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後、次に次のパスを受ける動きをすること。⑥ゴールとディスク保持者を結んだ直線上で守ること。</p>	<p>【知識・技能】①アルティメットの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したディスク操作やエンドゾーン前での攻防を展開するためのディスク操作と空間に走りこむなどの動きをゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解しうえて、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>9</p>
実技テスト		<p>○ ○ ○</p>	<p>2</p>	

2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・テニス) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術を理解するとともに、作戦を展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①テニスの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担任役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解し、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称え、互いに高め合うことができた。	○	○	○	9
	実技テスト			○	○	○	2
3 学 期	陸上競技 【知識及び技能】 ・自分にあったペースを維持して一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりすることができること。 【思考力、判断力、表現力等】 ・速く走るための動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己の考えたことを他者に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切に使用することなどや、健康・安全を確保する態度を養う。	・シャトルラン ・持久走 ・体育理論	【知識及び技能】 ・自分にあったペースを維持して一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・速く走るための動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己の考えたことを他者に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切に使用することなどや、健康・安全を確保する態度を養おうとしている。	○	○	○	3
							合計 78

足立 高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 保健体育 科目 アクティブスポーツ

教科： 保健体育 科目： アクティブスポーツ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組 ・ C 組

教科担当者： （A組：澤野、北川） （C組：澤野、北川）

使用教科書： （大修館 現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 アクティブスポーツ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数	
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ゴール型・バスケットボール) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れること。⑦ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。⑧ゴール前の空いている場所をカバーすること。	【知識・技能】①バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したボール操作や状況に応じたボール操作、チームメイトと連携して空間を作り出す動きや空間を埋める動きなどをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	25
	実技テスト			○	○	○	2
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・バドミントン) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①バドミントンの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	31
	実技テスト			○	○	○	2

1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	<p>球技(ネット型・卓球)</p> <p>【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をゲームで行うことができた。</p> <p>【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。</p> <p>①分担当した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。</p>	○	○	○	16
	実技テスト			○	○	○	2
							78

立 高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科： 芸術 科目： 美術 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者： （A組：大塩 ） （C組：大塩 ）

使用教科書： （ 日本文教出版 高校美術 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各項目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ ザ イ ン	映 画						
<p>A 題材 観察力を身につけよう (色鉛筆による草花の写生)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求しあわせている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なものを見つめ、主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え表現の構想を練っている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に身近なものを見つめ、感じ取った特徴をもとにして創造活動に取り組もうとしている。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遠近法の原理の学習 ○色鉛筆によるデッサン（質感・立体感・形） <p>・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色鉛筆、消しゴム、画用紙、参考作品 ・書画カメラ 	○					○	○	○	14
<p>1 学期</p> <p>B 題材 色や形で感情を表現しよう (原始絵画の技法)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原始絵画についての各技法についての知識・理解を深める。 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や形態などの表現を工夫し主題を追求して創造的にあわせている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや感情から主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に、自分の思いや感情などをもとにした表現の創作活動に取り組もうとしている。 主体的に、他者の作品のよさや意図を感じ取り、言語化しようとしている。 	<p>・指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○原始絵画の各技法の演習（吹付け、ステンシル、線刻、型押し、筆描き、タンボ描き） <p>・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉛筆、消しゴム、画用紙、参考作品、アクリルガッシュ、クレヨン、のり等描画用具、土、木炭 <p>・書画カメラ</p>	○		○			○	○	○	13

足立 高等学校 令和7年度（4 学年用） 教科

芸術 科目 書道 I

教科： 芸術（書道） 科目： 書道 I

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者： （A組：入山 ） （C組：入山 ）

使用教科書： （ 光村図書 書 I ）

教科 書道 I の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各項目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

科目 書道 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わったり捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
		漢 仮	漢	仮						
A 書道の理解 【知識及び技能】 ・書道の分野 ・小・中学校の国語科書写 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化 ・漢字の書体の変遷 ・各書体に特有の字形や線質の特徴 上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○指導事項 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認 ・臨書・鑑賞・創作の理解 ・用具用材の理解 ・それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈				○	○				6
B 唐代の楷書とその周辺 【知識及び技能】 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	○指導事項 書風の違いを理解させる。 ・九成宮醜泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 方勢と円勢の違いについて ・牛欄造像記 ・鄭義下碑 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈、参考作品				○	○				10
C 楷書の倣書 【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴 ・表現効果とその関わり ・書体や書風 ・用筆・運筆について 上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に対象を見つめ、古典から感じ取ったことや考えたことをもとにした表現活動に取り組もうとしている。	○指導事項 楷書を基に創作する 字書の扱い方 草稿の練り方 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈、字書				○	○				11

